

令和元年第3回月形町議会定例会一般質問答弁書

令和2年3月11日(水)

順番	3-1	質問者	楠 順 一 議員	発言 時間	答弁を 求める 者
質問事項			質問の要旨		
1		各種計画、審議会等における町民意向の把握と共通する課題について	<p>現在、本町においては以下の3つの計画策定が進行している。</p> <p>「第4次総合振興計画（後期）」</p> <p>「第2期月形町創生総合戦略」</p> <p>「月形町地域拠点施設整備」</p> <p>これらに伴いそれぞれ</p> <p>「月形町未来を考える委員会」</p> <p>「月形町総合戦略審議会」</p> <p>「月形町地域拠点施設整備等審議会」</p> <p>において町民の意向を反映するべく熱心な協議検討のうえ答申されている。</p> <p>これらに関しては「まちづくりアンケート」も含め、しっかり町民の意向が反映されているように感じるとともに、3つの計画において共通する課題が浮き彫りになっているように思う。そこで以下の2点について問いたい。</p> <p>（1）町政執行上、それぞれの計画策定の必要性については充分理解するが、町民には「どこに町政の力点があるのか分かりづらい。」とか、「計画は立派だけど成果が見えない。」との声もあると聞く。</p> <p>まして財源もマンパワーも限られている中で、</p>		町長

	<p>資源投入の分散化により政策効果が表れにくく、町民の中の停滞感を一層助長する恐れがある。</p> <p>そこで上記の計画や審議会の答申内容、アンケート結果に共通する課題を優先順位により絞り込み、例えば「アクションプラン」のような形で、時系列的な実行年限を明示して町民に提示できないか伺いたい。</p> <p>(2) その場合例えば振興計画に伴う「まちづくりアンケート」31pにある「満足度偏差と重要度偏差値」における「改善の優先順」が政策課題の絞り込みの参考になると思われるが、伺いたい。</p>		
--	--	--	--

答 弁 事 項	答 弁 内 容
<p>はじめに</p> <p>(1) 政策の力点、成</p>	<p>令和元年度、本町の重要計画の答申と策定、重要施設整備の答申がなされました。この場を借りまして、熱心に審議をいただきました審議会委員の皆さんに対し、心よりお礼を申し上げます。</p> <p>第4次月形町総合振興計画後期基本計画、第2期月形町創生総合戦略、月形町地域拠点施設整備等に係る答申は、まちづくりアンケートをはじめ、町民の皆さんの意見や担当した職員の点検・評価をもとになされたものです。</p> <p>総合振興計画と創生総合戦略につきましては、前計画を踏襲しつつも、アンケート結果などにより創生総合戦略47事業を総合振興計画の重点プロジェクトと位置付け、総合振興計画と創生総合戦略を関連付けた形で策定をいたしました。</p> <p>本町においても、人口減少、少子高齢化の急速な進行をまち</p>

果、政策効果が現れず停滞の恐れ。アクションプランで示せないか。

づくりの重要課題として捉え創生総合戦略を策定し、取り組みを行ってきました。しかし、残念ながらこの4年間で人口減少の抑制には至っておりません。成果が見えないとの厳しいご指摘は真摯に受け止めております。

第2期戦略では、全戦略事業57事業を47事業に絞り込み、子育て支援、農業・商工業での後継者支援、昼夜人口の乖離を是正すべく、民間賃貸住宅支援の拡充を進めるとともに、審議会の答申にもありましたが、町営住宅の在り方についても再度検討をしていきたいと考えているところです。

財源、人材の資源投入の分散化により政策効果が表れにくいとのご指摘ですが、現在、まちの重要課題への取り組みが重複していることは認めます。しかし、創生総合戦略の事業など役場全体のセクションで取り組むソフト的事業はこれからの5年間で着実に行うとともに、大きなプロジェクトは事業化まで何とかして乗り切り、ソフト事業とハード事業との相乗効果により、その成果を目に見えるものとしていきたいと考えております。

アクションプランを作成し、「いつまでに何をやるのか」を町民に明示してはどうかとのご提案であります。まさに創生総合戦略が5年という期間の中で業績評価を行うもので、名称こそ違うもののアクションプラン的な位置づけであろうと考えております。この5年間の中で着手できる事業は、なるべく早く着手し、今後、効果的な取り組みについては、新たに制度設計をしたり、事業の修正も柔軟に対応していきたいと考えております。

また、これからの5年間の具体的な取り組みや進捗状況につ

(2) 改善の優先順が政策課題の絞り込みの参考

いては、町民の皆さんにわかりやすく、細かくお知らせする努力をしていきたいと考えております。

このご質問は、議員が第2期戦略のよき理解者としてのご提言と受け止めますが、改善の優先度が高い項目として、医療制度、路線バスの状況、商業振興の状況、それに加え30歳代以下の改善度が高い項目である子育て支援体制に力点を入れるべきと考えております。

医療体制につきましては、町政執行方針でも述べさせていただきましたとおり、町立病院の経営の安定化が図られていますことから、新たな体制への移行等については、今後の判断とさせていただきますこととしました。

また、路線バスの状況については、JR札沼線廃止に伴います代替バスの運行、デマンド交通の事業化で対応をさせていただきたいと考えております。商業振興の状況については、ホームックニコットの進出については町としても側面からバックアップをした経緯があります。地域拠点施設整備等審議会では、強く答申には盛り込まれていませんが、拠点施設整備を進める中で是非ともこうした商業施設の出店に期待をしているところでもありますし、町としても参入業者の支援について検討をしていきたいと思っております。子育て支援につきましては、花の里こども園に通う児童の給食費の無償化、高校生までの医療費の無償化、町外の小児科以外の通院費助成の拡大と思い切った事業化を図る予定です。

こうした優先順位の高い事業を推進することはもとより、以外の事業も含めて全体的に創生総合戦略で事業推進をしてまいります。

私も議員同様の考えのもと、戦略事業の中で事業の優先化を行ってきたつもりでありますのでご理解をお願いします。

令和元年第3回月形町議会定例会一般質問答弁書

令和2年3月11日(水)

順番	3-2	質問者	楠 順 一 議員	発言 時間	答弁を 求める 者
質 問 事 項			質 問 の 要 旨		
2		拠点施設における商業振興の取組みについてについて	<p>前段の質問（2）で示した「まちづくりアンケート」の「改善の優先順位」の中で「路線バスの状況」と「商業振興の状況」が上位3項目の重要な位置にあり、拠点施設の整備はこの具現化の絶好の機会と考える。</p> <p>「月形町地域拠点施設整備」の答申において拠点施設整備のコンセプトを『集い、憩い、交流』としている。</p> <p>『集う』ための移動手段である路線バスについては4月からの代替バスの運行状況の推移を見守る必要があるが、『憩い、交流』において商業振興の役割が大きいと考えるが、答申には「町と関係機関が別途協議することが望ましい。」とあるが、町としてどのように取り組む考えか伺いたい。</p>		町 長
答 弁 事 項			答 弁 内 容		
		町としての取り組み	<p>答申は最大限尊重したいとの考えに変わりはありませんが、この答申を基にさらに町民の皆さんのご意見を伺い、町の方針を決めていきたいと考えております。</p> <p>1の答弁でも触れましたが、ホームックニコットの出店の際に出店担当の役員の方から「お客さんの対象は月形町民だけではなく、近隣の自治体の方々も計算した中でのマーケテ</p>		

イングであった。」ことを伺いました。答申をいただきました月形小学校敷地を候補地と決めたわけではありませんが、商業施設の出店もホームックニコットのようリサーチをしっかりしてもらえれば、出店・その後の経営の可能性は高いのではないかと考えております。

今後、月形商工会や月形町農業協同組合をはじめとし、町内外の方に事業提案をいただきたいと考えております。また、事業参入をいただく方々も加わっていただき、施設整備を検討する組織化も必要ではないかと思っております。月形町民のみならず、月形町を中心とした圏域の方々に喜ばれる拠点施設づくりを推進していきたいと思っております。

令和2年第1回月形町議会定例会一般質問答弁書

令和2年3月11日(水)提出

順番	4	質問者	松田 順一 議員	発言 時間	答弁を 求める 者
質問事項		質問の要旨			
1	プログラミング教育について	<p>新学習指導要領で、プログラミング教育は2020年より小学校から、2021年より中学校で必修化される。しかし、実際のところプログラミング教育はどのように学習するのか知らないのが実情である。そこで次の3点について伺いたい。</p> <p>(1) プログラミング教育の目的とは</p> <p>(2) プログラミング教育必修化の理由</p> <p>(3) 月形小・月形中の現況について</p>			教育長
答 弁 内 容					
<p>通告に基づきお答えいたします。</p> <p>平成29年3月に小学校及び中学校の新学習指導要領が公示され、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から全面実施となります。</p> <p>新学習指導要領では、情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を充実させることが加えられ、小学校においてはプログラミング教育を必修化、中学校においては、既に必修となっている技術・家庭科（技術分野）のプログラミングに加え、情報セキュリティに関する内容を学習することなど内容を充実させることとなりました。</p> <p>1 プログラミング教育の目的とは</p> <p>今日、コンピュータ等の情報技術は急激な進展を遂げ、スマートフォンやタブレットパソコンに見られるように情報機器の使いやすさの向上も相まって、子どもたちが情報を活用したり発信したりする機会が増大しています。</p> <p>プログラミング教育の目的は、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」（自分が意図とする一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号</p>					

を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力)を育むため、小学校においては、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるための学習を計画的に実施することとしています。その際小学校段階において学習活動としてプログラミングに取り組むねらいは、プログラミング言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりといったことではなく、プログラムの働きや良さ、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付き、コンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むこと、さらに、教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実なものとすると言われています。

2 プログラミング教育必修化の理由

中学校においては、現行の中学校学習指導要領で技術家庭において「プログラムによる計測・制御」が必修となっており、新学習指導要領では小学校では必修化、中学校では内容を充実させるとなりました。小学校の必修化の理由ですが、前述したように、今日ではコンピュータなしでは日常生活が送れなくなっており、現に、90%の職業が少なくとも基礎的なITスキルを必要としていると言われており、多くの国が学校教育のカリキュラムの一環としてプログラミングを導入しています。一方日本では、2020年までに37万人ものIT人材が不足すると言われていています。今後、国際社会において「IT力」をめぐる競争が激化することが予測され、子どもの頃から「IT力」を育成して視野を広げておかなければ勝ち抜くことができないという背景からのようです。

3 月形小・月形中の現況について

プログラミングというと、パソコンの黒い画面に淡々と文字を打ち込んでいく様子をイメージし、議員のお考えとおおり小学生や中学生の段階でプログラムを作成するのは難しく、教職員によっては詳しい人ばかりでもありません。

小学校段階におけるプログラミングは、児童がプログラミング言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりすることをねらいとしているものではなく、あらかじめプログラミングを体験させ、コンピュータの操作等に慣れ親しませることが重要とされています。また、中学校においても、プログラミング教育は「専門家」を育てるための教育ではなく、現代社会で広く扱われている「技術」を体験し、理解を深め興味を持たせることが目的とされています。

児童・生徒への指導は、教職員が新学習指導要領の解説及びプログラミング教育の手引きを基に指導していくこととなりますが、幸いにして、本町には中学校に特にプログラミングに精通した教員が在籍しております。その教員は、数学科を専門とし、プログラミング教育に関して、管内の学校に招へいされ授業を行っているほか、研究大会での実践発表などプログラミング教育に関して積極的な活動を行っています。また、月形町においても、教員への模擬授業や小学校への乗り入れ授業、公開授業研究の実施など、先進的な取り組みを行っています。

このことから、月形町では、プログラミング教育の全面実施に向けて、次のように準備

を進めているところです。

(1) 月形小学校

① これまでの取組み

ア 校内研修

教職員では、校内研修としてScratch（スクラッチ）※1というプログラミング教材やICTを活用した模擬授業を、月形中学校からプログラミングに詳しい教職員を招いて行ったほか、研究授業を行うなどしてプログラミング学習を実施しています。

イ 中学校からの乗り入れ授業

6年生の授業で中学校からの乗り入れ授業を行い、「電気を効率よく使うにはどうしたらよいか」を考える手立てとしてプログラミング学習を実施しています。

② これから（全面実施後の指導）

ア 必修化に伴う授業時数

プログラミング学習は独立した教科として行われるものではなく、定まった時数はないので、3～6年生の総合的な学習の時間を核として5～10時間程度で、プログラミング的思考を育む教材Scratchの扱いやパソコンについての基本操作など情報機器活用について学ぶ予定としています。また、各学年複数教科に渡って、3～5程度の単元で「プログラミング的思考」を学ぶ予定としています。

イ 教材

Scratchなどのほか、令和2年度に教材としてアーテックロボ※2を購入し、制御を学んでいく予定としています。

ウ 指導方法

プログラミング的思考を育むためには、パソコンを使って学ぶ方法と、使わないで学ぶ方法があります。パソコンを使って学ぶ場合については、昨年度購入したタブレットパソコンなどを活用し、個人がScratchなどのソフトを使い、プログラミング制御を学ぶ予定としています。

また、パソコンを使わないで学ぶ場合については、教科学習の中で「順序」・「繰り返し」・「条件分岐」などの論理的思考を育むよう指導していきます。例えば、国語では「まず」「つぎに」などの接続詞を的確に使って作文を書いたり発表したりする学習をしていきます。

(2) 月形中学校

① これまでの取組み

ア 校内研修

教育振興会での研究授業の実施や、小中学校教職員、北海道教育委員会職員や教育委員会を招いて公開授業研究を行い、プログラミングの授業を公開するなど、プログラミング教育の理解を深める活動を行ってきました。

イ 授業内容及び時数

これまではScratchを使い

- ・ コンピュータによる計測・制御の情報の流れを調べる

- ・ プログラムを作るための基本的な情報処理の手順を考える
 - ・ 順次処理などのプログラムを作成する
- を1年生で5時間、2年生で2時間の単元で実施しています。

② これから（全面実施後の指導）

ア 授業内容及び授業時数

- ・ 情報通信ネットワークの構成、安全に情報を利用するための仕組み
- ・ 問題の発見と課題の設定
- ・ 情報処理の手順の具体化
- ・ 制作の課程や結果の評価、改善及び修正

を1年生で2時間、2年生で10時間、3年生で17時間の単元で実施していく予定として
ています。

イ 教材及び指導方法

Scratchなどのほか、アーテックロボ、その他を教材を使い、上記内容を学んでいく予定
としています。

今後においても、プログラミングに精通する教員を中心に、校内研修や学校全体でプロ
グラミング教育方法について確認し教職員のスキルを上げ、パソコンを操作するだけでな
く、興味を持ちやすいものを使うなど、様々な取り組みを行いながらプログラミング教育
を充実させ、児童・生徒が「プログラミング的思考」を育ていけるよう努力してまいり
たいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、教育現場の視察については、毎年公開授業等を実施していることもあり対応可能
ですので、機会を設定していただいても構いませんので、よろしくをお願いします。

※1 誰でも無料で使える無料ソフトです。分かりにくいプログラミングの命令を「プロ
ック」と呼ばれるイラストに置き換え、積み木で遊ぶかのように簡単にプログラミング
をすることができます。プログラミングで命令を与える対象物には、イラストがたくさ
ん使われていて、子どもたちの興味を引き飽きないように工夫されています。

※2 カラーブロックで形を組み立て、無料のプログラミングソフトで制御するロボット
プログラミング教材です。ロボットにイメージ通りの動きをさせるために、命令を考
え、効率よく順序立てて並べる事で論理的思考力を育み、ロボットが思ったとおりに動
かない時は、原因を探し自分なりの答えを見つける事で問題解決力が身に付くとされて
います。